

6月26日におこなわれた「サロマ湖100kmウルトラマラソン」に出場しました。お陰さまで今年も無事(?)完走することができました。記録は約11時間で昨年よりも45分ほど短縮できました(⇒苦しむ時間が少し減りました)。

多くのひとから「なんでそのような愚かなことをするのか?」という素朴な質問をいただきます。

5年前、マラソンに興味もなかった私がそもそも走り始めた理由は「ビールを今以上に美味しく飲むことはできないのか!?’という“純粹なる科学的探究心”からでした。ただしビールがおいしく飲めるのは42kmまで・・・100km走った後に飲むと死ぬほど後悔することはその後わかりました。



“左から寅次郎、私、史、鬼嫁、福、正吉”

それでもやっぱり100kmを走りたいと思うのは

- ・鬼のような体力をつけたいなあ
高度な技術力や知識も必要かもしれませんが、現場で仕事するうえで最後にものをいうのがやはり「体力」であることを何度も経験しています。
- ・心をもっと強くなったらいいなあ
仕事には挫折や失敗がつきもの。それでもめげずにやり続けるには「折れないところ」が無くてはと思っています。特に私はひとよりもところが折れやすいので・・・。

今回も凄まじく苦しくて辛い100kmでしたが、やはりゴールの瞬間の“あの感覚”は何ものにも代えがたいものがあります。

ソフトバンク孫正義社長の言葉

“ 近くを見ているから船酔いするのです。

100km先を見ていると景色は絶対にブレない。”